

序章

1. 基本構想の目的

大分市の中央部に位置する滝尾駅周辺地区は、別府湾に注ぐ大分川沿いに広がった地域であり、古くは交通の要衝となっていました。江戸時代には、肥後街道が区内を通り、参勤交代のルートとなり、その後、商店の集積により、戦前まで賑わっていました。

大正3年に滝尾駅が犬飼軽便線として開業し、その後豊肥本線の駅となり、現在の市街地が形成されています。

本地区は、『大分市都市計画マスタープラン』の地区別構想において、大分地区の一部の住宅市街地に位置づけられており、良好な住環境の整備が求められています。

滝尾駅周辺では、道路が狭いことによる円滑で安全な移動に課題があるなど、良好な住環境に必要な基盤不足や、滝尾駅の利用者のための駐車場や待機スペースがないなどの交通結節点としての機能不足などの課題もあります。

本市では『大分市まちづくり自治基本条例』において、市民の幸せな暮らしの実現を目指すために市民主体によるまちづくりを行うことを自治の基本理念としています。

都市づくりは、そこに住む人、そこで働く人のためのものです。自らの生活を豊かにする都市づくりは、自らが考え、行動することが重要です。

「滝尾駅周辺整備基本構想」（以下、基本構想）は、こうした諸状況を踏まえ、市民や利用者のニーズに的確に対応し、本地区の拠点整備の方向性や方針等を市民、行政、まちづくりの専門家等で共有し、市民が主役となる都市づくりを官民協働で整備の推進を図っていくことを目的として策定するものです。

2. 対象区域：滝尾駅周辺地区

本基本構想の対象区域は、JR 滝尾駅を中心とした、都市計画道路萩原鬼崎線、片島松岡線、花園細線で囲まれた下記の範囲とします。ただし、基本構想の具体化を進める過程で、本地区拠点整備の趣旨を実現するために必要な施策や事業によっては、対象区域外も含めることを検討します。

